

## 製品名: ITPK1 ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe02176

研究使用のみ

### 概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

### 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 46 kDa; Observed MW: 46 kDa

### 抗原情報

遺伝子名	ITPK1
別名	ITRPK1
遺伝子 ID	3705
SwissProt ID	Q13572
免疫原	ヒト ITPK1 の合成ペプチド

### 背景

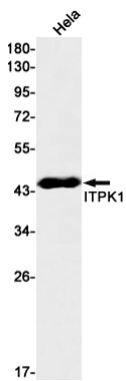
Ins(3,4,5,6)P4 や Ins(1,3,4)P3 など、様々なイノシトールポリリン酸をリン酸化できるキナーゼ。Ins(3,4,5,6)P4 の 1 位をリン酸化し

て Ins(1,3,4,5,6)P5 を生成する。Ins(3,4,5,6)P4 は細胞膜 Ca<sup>2+</sup>活性化 Cl<sup>-</sup>チャネルの阻害剤であるのに対し、Ins(1,3,4,5,6)P5 は阻害剤ではないため、この反応は制御的に重要であると考えられている。また、Ins(1,3,4)P3 の O-5 および O-6 位をリン酸化して、ヘキサキスリン酸 (InsP6) 経路に必須の分子である Ins(1,3,4,6)P4 を生成する。イノシトールポリリン酸ホスファターゼとしても機能し、Ins(1,3,4,5)P4 および Ins(1,3,4,6)P4 を Ins(1,3,4)P3 に、また Ins(1,3,4,5,6)P5 を Ins(3,4,5,6)P4 に脱リン酸化します。また、ADP およびマグネシウム存在下でイノシトールテトラキスリン酸異性体である Ins(1,3,4,5)P4 および Ins(1,3,4,6)P4 を相互変換する異性化酵素としても機能する可能性があります。InsP6 経路の律速酵素として機能すると考えられます。TNFRSF1A 関連ドメインの活性化を阻害することにより、TNF- $\alpha$  誘導性アポトーシスを修飾します。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



ITPK1 抗体を使用した HeLa 溶解物中の ITPK1 のウェスタン プロット分析。